



ROTARY 2660 YONEYAMA ALUMNI KANSAI 2018-2019



米山奨学生 関西学友会 35



目次

あいさつ

2017-2019 年度米山奨学生学友会（関西） 会長 ディネス シュレスタ	4
2018-2019 年度 国際ロータリー第 2660 地区 ガバナー 山本 博史	5
2019-2020 年度 国際ロータリー第 2660 地区 ガバナー 四宮 孝郎	6
米山記念奨学会 副理事長 若林 紀男	7
2018-2019 年度 国際ロータリー第 2660 地区 米山奨学委員会 委員長 岡部 倫正	8
2019-2020 年度 国際ロータリー第 2660 地区 米山奨学委員会 委員長 廣瀬 彰久	9

奨学生作文

Gita Nirmala Sari 『Happy To Be Part of the Rotary Yoneyama Scholarship』	10
PHAN KHANH LINH 『日本での「お家」』	11
グルング デズ プラカス 『Experience as scholarship students』	12
フレディアント 『この 2 年間の奨学生として得たもの』	13
Justin Sanders 『ロータリーのおかげで』	14
チャミラー・マッラワーラッチ 『スリランカ人の目で見た日本』	15
銭 雅敏 『初心をいだき続ける』	16
Katirai Amelia 『忘れることのない一年間』	17
Trevor Holdcroft 『米山学者としての 2 年間』	18
Shinta Masyta Sipayung 『ロータリーとの良いご縁』	19
NGUYEN THI TUYET NHUNG 『米山奨学生になって得たこと』	20
ALIPOUR YASER 『ロータリーとの良いご縁』	21
頼 麗傑 『私にとっての日本留学』	22
張 彤 『奨学生の生活で得たものについて』	23
方 嘉雯 『今までの私』	24
NGUYEN MINH THU 『米山奨学生になって素晴らしいことと思う』	25
郎 宇 『留學生活の感想』	26
来 方遠 『ロータリーから得たこと』	27
黄 麗儀 『私の人生のターニングポイント』	28
曾 佳荷 『ロータリーにいた一年』	29
趙 雨桐 『ロータリーに出会って、自信が戻った』	30
RIZKY FAJAR PRATAMA 『How Rotary Change My Opportunity in Japan』	31

2017 年度会計収支決算書		32
2018 年度会計予算書		33
活動報告		
米山新規新奨学生オリエンテーション		35
運動会	アリフ ザイニ	36
2018 年度米山総会及び新規奨学生歓迎会	ディネス シュレスタ	37
「ACTION WITH SMILE」		
秋懇親会	加藤 正雄	38
宝塚観劇	ホーファー・ファビエン	39
ロータアクトとのスポーツ交流会	アリフ ザイニ	40
クリスマスパーティー	Alifianto Adi Nugroho	41
感謝祭：奨学生代表スピーチ	楊 晨	42
感謝祭：実行委員長の挨拶	PHAN KHANH LINH	43
台湾学友会 35 周年記念総会 タイ米山学友会と 2660 ローターアクトの交流	林 小微 CHUTIKAN TEPSARN	44
2019 年度会報募集要項		45



Did you know? 米山学友会の豆知識

About Yoneyama Scholarship Alumni Association

学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

イベントなどの最新情報を提供

本会は、ホームページや Facebook 等による運営を行なっております。また、メーリングリストによる一斉送信も行なっております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Website: <http://yoneyama2660.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>
Email: yoneyama2660@gmail.com

学友会の会員になる方法

関西に在住の元米山奨学生（OB .OG）現役奨学生の方々は全員は本会の正会員、準会員とする。関西近辺にいる学友の皆さま、是非一緒に本会の活動にご協力、ご参加をお願い致します。

会費は必要ですか？

年会費は 2012 年度により廃止されました。
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

学友の活動とは？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。

「今までの出合いを大切に」

ディネス シュレスタ

2017-2019 年度米山奨学生学友会（関西）
会長（宝塚武庫川RC）

学 友のみな様、お元気ですか？

2018年度の奨学生を終了された学友、2019年度新規奨学生のみな様おめでとうございます。

先輩方も常に言っていますが、私達米山学友、米山奨学生の基は米山奨学金制度です。この制度を支えておられる全国のロータリーアン、カウンセラーの先生方には先ず、心からお礼を申し上げます。米山奨学生学友会の目的は奨学生期間が終了後も元奨学生（学友）及び現役奨学生とロータリーアンとの交流し、国際親善に世界平和の創設と維持に貢献することです。日本米山奨学金制度で得

た知識や経験を母国や日本社会に地震の力と笑顔で実際に踏み行うことが私達の目標です。

現役奨学生のみな様は月1回所属クラブの例会でカウンセラー先生含む多くのロータリーアンと出合いロータリー精神、奉仕の心を育み、社会的な役割を身につけていきます。学業に励み、日本の多くの方々と触れ合いながら日本の習慣・文化も学び日々成長していきます。

2019年2月24日の終了式後の懇親会でゲーム司会者があるカウンセラー先生に「今年一番の嬉しいことは」と尋ねられました。「。。さん（指導していた奨学生）が大

学の博士号を取ったこと」とすぐに本当に嬉しい顔で答えられました。

普通の留学生在が米山奨学生になりながら博士号を取って、立派な博士に育って下さったカウンセラー先生の喜びがこっちまで伝わってきた瞬間でした。

みな様のご活躍もカウンセラー先生、クラブのロータリーアンと共に私達学友も多変楽しみます。

奨学生終了後は是非学友会にも活動を広げてください。

今までお世話になった方に感謝の気持ち、出会った方のご縁を忘れずにみな様と共に大切にしたいと思います。



山本 博史

2018-2019 年度国際ロータリー第 2660 地区
ガバナー

2018 学年度の米山奨学生の皆様、無事終了されました事、心よりお祝い申し上げます。又、新たに米山奨学生学友会（関西）にご入会の皆様、今後とも我々ロータリーと末長い良いお付き合いをお願い致します。そして、2019 年度新規の米山奨学生の皆様、これから米山奨学生として、充実した 1 年を送って下さい。そして、ロータリーとの出会いが皆様の人生にとって、心から良かったと思っ
て頂けるような 1 年になる事願っています。
又、皆様にはロータリーの活動に積極的に関わり、ロータリアンとの交流を通じて人間として成長し、ロータリアンの奉仕の精神を共有して将来は母国と日本のかけ橋となり、更には世界理解、国際親善、世界平和

に貢献するリーダーになって頂きたいと思っています。そして、米山奨学生学友会（関西）の皆様には、日頃から米山奨学事業をあらゆる面で支援して頂きありがとうございます。お陰様でロータリーと米山奨学生の絆の深まりは、日本中、更には世界に及び 2015 年ソウル国際大会での「米山学友懇親会」、2016 年「感謝 in 熊本」、「世界米山学友会の発足」と発展し、本年 7 月に世界米山学友会 in ウランバートルが開催予定と確実に広がっています。その先頭に立って索引して下さいなのが学友会（関西）の皆さんです。今後とも、米山奨学生学友会（関西）がますます発展されます事、そして会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



四宮 孝郎

国際ロータリー第 2660 地区
2019-2020 年ガバナー
大阪西南 RC

米 山学友会（関西）の
皆様へ
米山記念奨学会が財
団として設立されて51年が
経過し、又「超我の人 米山
梅吉翁」を顕彰する記念館が
建てられてから50年の節目
を迎えようとしています。
日本における民間最大の奨学
事業を実施しているこの米山
記念奨学会は、毎年約780
名の奨学生を支援し、その累
計は2万人を超えています。
この事業の最大の特長は世話
クラブとカウンセラー制度に
あります。この特長により奨
学生とロータリークラブ及び

ロータリアンの間で絆が深ま
り、母国と日本との国際交流
に大きく寄与しているのは言
うまでもありません。
現在、この米山学友会（関
西）をはじめ、国内のみなら
ず海外にも9つの米山学友会
が設立されているのが、その
証でもあります。
当地区の学友会の皆様の活動
も大変活発に行われており、
世話クラブやカウンセラーと
共に現役奨学生の大きな心の
支えになっている事も間違い
ありません。
今、国際ロータリーではロー
タリーファミリーの絆をより

深める事が強く叫ばれていま
す。昨年11月に当地区の
RAC 海外研修において、タ
イ米山学友会の皆様の大きな
協力が共同奉仕事業として実
を結んだのも、その良い例の
ひとつであります。
これからも米山梅吉翁の「傾
ける耳・涙する目・差しのべ
る手」を胸に刻み、共に活動
をして参ろうではありません
か。
今後の皆様の益々のご活躍を
心より祈念してご挨拶とさせ
て頂きます。

若林 紀男

米山記念奨学会 副理事長

関西学友会の皆様には、平素より米山奨学会にご協力並びにご尽力を賜り誠に有難うございます。深く感謝申し上げます。

2019学年度は850名の奨学生を採用することとなりました。ピーク時(1998学年度)には1100名の奨学生を採用しておりましたが、日本経済の低迷と共にロータリアンが減少、それに伴い採用できる奨学生数も減りつつありましたが、近年寄付の回復により採用人数が増加傾向にあります。このことは、米山記念奨学事業に多くのロータリアンが理解を深め、賛同している証であります。

奨学事業に共感する最大の魅力は、素晴らしい奨学生の未来を応援し、その成果を目の当たりにできることです。支援したロータリアンは皆様が

活躍する姿を見て喜び、その成果が社会に素晴らしい影響を与えることに満足と誇りを感じるのです。この循環が奨学事業をより発展させる原動力となります。

関西学友会は卒業後の奨学生の活躍や功績を知る上で、ロータリアンとの大きな橋渡し

役を担ってくれていると感謝しています。

また、国内外の学友会のリーダーとしてALL学友会から注目される存在でもあります。

ソウル国際大会での「ロータリー学友会の集いプログラム」に於いて中心的役割を果たし、国際ロータリー学友会の中でも米山学友会の力の素晴らしさを知らしめてくれました。2017年「感謝 in 熊本」では国内外から大勢の米山学友とロータリアンが集い

災害地熊本を激励し、感動を与えられました。

第2弾として本年7月には「絆 in モンゴル」そして2021年6月には国際大会に合わせて第3弾として台湾で開催予定と伺っていますので、益々その存在感が増すことと期待しております。

これからの関西学友会に希望するのは、ALL学友会の旗振り役と、未だ学友会に所属していない奨学生の掘り起こし、そして学友会が力を合わせて社会に貢献することです。もちろんロータリアンも手を携えて支援致します。

関西学友会の益々の発展が、国内外の学友会に大いに刺激となることを認識いただき、

活動を深めて頂きたいと願っております。

『奨学生としての在り方』

岡部 倫正

国際ロータリー第 2660 度地区
米山奨学委員会 委員長
城南 RC

2018 学年度の米山奨学生の皆さん、無事奨学期間を終了されたこと心よりお喜び申し上げます。今後皆さんは学友という立場でロータリークラブとの繋がりをもって頂きます。これからは世話クラブ、カウンセラーの皆さんから学んだロータリー精神を基に国際理解を深めた日本と母国との懸け橋として、国際親善に尽くす人材としてご活躍されることを祈念しております。そして遠い将来、ロータリーソング『それでこそ、ロータリー』の歌詞にもあるように「どこであっても“やあ”と言おうよ 見つけたとにきや“おい”と呼ぼうよ 遠い時には手を振り合おうよ

それでこそロータリー」の歌詞のシチュエーションが来ることを楽しみにしています。

2019 学年度の新規奨学生の皆さん、学内選抜を通過し、そして米山選考試験を見事突破し晴れて米山奨学生としての現在はいかかでしょうか。世話クラブ、カウンセラーの皆さんとも、そろそろ慣れてきた頃ではないでしょうか。

この奨学期間と言うのはあっという間に過ぎていくものです。しかし、この1年2年の短い期間は奨学生皆さんのこれからの長い人生に大きな経験、実績として残り、ひょっとしたら人生の転換期になるかも知れません。ですから、多くのロータリアンとの交流を楽しみ、色んな経験を吸収し、積極的に学

友会の先輩との交流も期待してください。そうすればロータリーライフがもっと、もっと素晴らしいものとなり交流の華が咲き誇ることでしょう。

私は2019学年度は地区委員会の立場を離れ、自クラブのカウンセラーとして奨学生のお世話することになりましたので、皆さんとは地区米山委員会の主要行事でお会いするかも知れません。その時には声を掛けて頂ければ嬉しく思います。最後に2019学年度の皆さんの1年後2年後の成長を期待し、笑顔を絶やさず奨学期間を過ごしていただければ幸いです。

廣瀬 彰久

国際ロータリー第 2660 度地区
2019-2020 年 米山奨学委員会 委員長
守口 RC

皆様、日頃よりロータリー
米山記念奨学事業にご
理解、ご協力頂きまし
て誠にありがとうございます。

当時業は、将来日本と世界を結ぶ
「架け橋」となり国際社会で活躍
し、ロータリーのよき理解者とな
る人材を育成することを使命とし
ております。

4 月より「令和」の時代となり、日
本においては「平成」は戦争のな
い時代と言われております。「日
本の生きる道は平和しかない」と
言うこの言葉は、「ロータリー記念
奨学会 50 年のあゆみ」に紹介
されております。

この平和日本を世界に理解して頂
くのには多くの留学生を日本に迎
え入れて、実際に留学生自身に感
じてもらうことが大変重要である
と思われまふ。そしてそれが、平和
への人づくりに繋がっていきます。

ただ、初めて日本に来る留学生は、
異国の文化に触れる事には大変
勇気もいるでしょうし不安もある
でしょう。その為、奨学生の皆さ
んがこの日本で安心して勉学に励
めるように世話クラブ制度やカウ
ンセラー制度があります。また、ロ
ータリアンとの交流を通してロー
タリーの奉仕の精神を学んでほし
いと思います。

交流を通して奨学生のみなさんは
将来国際社会で活躍し、日本と母
国との架け橋となり世界平和に貢
献できると思います。

2019 年度の新規奨学生の皆様、
そして学友の皆様、改めてこの機
会を大切に頂き、例会・行事
などにも積極的に参加し、より
多くのロータリアンに巡り合い、
自分自身を高めて成長してくださ
い。

Happy To Be Part of the Rotary Yoneyama Scholarship

Gita Nirmala Sari
Indonesia
千里 RC
大阪大学

I am very happy to have been part of the recipient of the Rotary Yoneyama Scholarship for the past 2 years. Many things I have done together with the Rotary family.

I can get to know many students from other countries, build good relationship with them and also have many opportunities to gather together with members from Rotary. Every process of my activities goes well and with a feeling of pleasure. Although I have a lot of work to do at the university, I always try to participate in all activities organized by Rotary Yoneyama and Rotary Alumni. Because by participating in these activities, it will add to my insight into life in Japan such as culture, habits, lifestyle and togetherness.

I have gotten a lot of new friends for the past 2 years. I Get to know a variety of people and the spirit of Rotary and this is very happy for me. Senri Rotary Club always involves me in various events they hold. Some of their activities also involved not only me but my family too, this made me feel very appreciated and noticed.

I am very grateful to the Rotary club, especially the Senri Rotary Club, for all financial assistance, support and motivation that never broke, so that I and my family can live well and adapt well for the past 2 years.

The achievements of my learning and research experience over the past 2 years in Osaka University have also been very good.

I have published 1 paper in this 2 years. Also I got several opportunities to take part in research workshops, conference and student exchanges in several countries. I can do this because of the continuous support and motivation that given by the Rotary Club to me at all the times.

I hope in the future, I can always maintain good relationship with fellow alumni from Rotary Yoneyama, and also with the Rotarians.

I also hope to be able to participate in the activities that are held in the future, especially Rotary Alumni activities.

Hopefully the Rotary Yoneyama is increasingly victorious with the spirit of Rotary that will never run out.

日本での「お家」

PHAN KHANH LINH
Vietnam
東大阪みどり RC
大阪国際大学

私は厳しい家庭に生まれたため、失敗することは許されませんでした。そのため、私は決まった道、安全な道しか進めず、「挑戦する」ということは、非常に贅沢なもののように感じていました。

そこで、20歳の時に米山奨学生として採用されたことが、私に希望を与えてくれました。東大阪みどりロータリークラブに所属することになり、会員の方々とその家族の方々に恵まれ、日本に来て良かったと思えました。毎月の例会で、私の近況報告が成果報告なら「頑張ったね!」、「偉いね!」と褒めてくれ、悩み事や失敗なら「散々だったね!お疲れ様。」や「また頑張れば良いよ!」といった優しく声掛けをしてくれていました。私はその一つ一つの言葉に救われ、家族には感じられなかった温かさを感じました。世話クラブのおかげで、私は自己嫌悪

から抜け出すことができ、「自分は役に立つ人間だ」と信じることができました。そして、東大阪みどりロータリークラブの方々は、もし私が失敗しても責めたりしないだろうという安心感を得た私は、どんどん新しいことに挑戦し始めました。それが、優しさで応援してくれた世話クラブの方々に恩返しする方法だと思いました。

2年間の間、ロータリー地区大会のお手伝いをしたり、米山総会の司会をしたり、米山学友会の活動に予定が許す限り参加しました。最後には、米山感謝祭の実行委員長を務めさせて頂きました。活動に参加するたびに、たくさんの方々とお話ができて世界観が広がりました。また、イベント実行で協調性や計画性が高まったのはもちろん、大勢の前で話す自信も身につきました。そして、何よりも、自分が経験したことを東大阪みどりロータリークラブの方々に

報告できることが一番の楽しみでした。

米山奨学生としていた2年間は私に自信をつけてくれました。以前は、自信がなかったため、周りの意見に左右されやすく、自分が進みたい心理士の道に不安を感じ、諦めかけた時もありました。しかし、ロータリーから勇気と自信をもらった今では、例え真っ直ぐに夢に辿り着けなくても、最終的に自分の夢を実現できるように挑戦し続けたいと思えるようになりました。そして、スクールカウンセラーがまだない母国でその事業を始め、ロータリーの奉仕の心を広げたいと思います。

まもなく卒業し、母国に戻りますが、日本にでも東大阪みどりロータリークラブと米山学友会という「お家」があることを胸に、また日本に帰って来られるように努力します。今まで本当にありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

My Experience as scholarship students

グルング デズ プラカス
ネパール
大阪イブニング RC
大阪産業大学

We all know , we human beings will be learning new things till our death. We will experience hundreds of new things in our whole life. I have many experience and learned hundreds of new things while I was part of Yoneyama Rotary Scholarship Student for 2 years. I got Yoneyama Rotary Scholarship for 2 years from 2017 to 2019 . This 2 years was one of the most important part of my life as I had got opportunities to experience many things.

I am from middle class family of Nepal . My parents were quite worried about my university fee and my daily expenses so, I used to do part time job for 28 hours per week . I was unable to focus on my studies and didn't have enough time to sleep at night as I used to do night part time job in convenience store but when I got mail from my

university teacher that I was selected in Yoneyama Rotary Scholarship for 2 years my eyes were full of tears. After getting scholarship I was able to focus for my studies properly and got enough time to explore new technology .

Eventhough I have been 6 years in Japan due to part time job and studies I was unable to explore Japanese culture, foods and places but 2 years of Yoneyama Rotary Scholarship was one of the most fruitful. I got many opportunities to explore Japanese culture,visit new places and eat many new dishes. I had never been for boating in the sea but due to help of sewa club member I got chance for boating too. I got chance to visit kanazawa and many more places. Beside this I got opportunity to know about japanese culture, rules and regulations by participating in different events.

Sewa club treated me as their own child eventhough I was far from my family. Sewa club members were my parents in Japan. I used to ask every single about Japanese culture and Japanese language and without any hegitation they used to reply me within a minute. After graduation I planned to start my own start up . My aim is to explore new things and discover some new things which will help everyone to solve their problems so, first of all I decide to solve problem of Japanese language of Nepalese students and business man in Japan . Starting companies in Japan is not a easy job so, my sewa club members helped me in searching room, registering company and many more.

In future I will return back to my country and build a school . I will teach the children what I had learned in this 2 years.

この2年間の 奨学生として 得たもの

フレディアント
インドネシア
大阪船場 RC
大阪工業大学

改めて貴会の奨学生として採用していただいたことに、心から感謝を申し上げます。2017年4月から貴会の奨学金を受給し、金銭面での不安を一切抱えることなく学業に専念でき、2019年3月に卒業することができました。奨学金を受給したことで、大学院進学を決断し今年4月から大学院生として専攻分野を深く学修し続けます。そして、世話クラブの方々やカウンセラーの岡本さんならびに他の奨学生と出会い、大学内では得られない経験を積み、充実した2年間を過ごすことができました。奨学生として、貴財団や世話クラブおよび学友会が開催した多くのイベントに参加して、日本文化やマナーを知得することができ、私自身大きく成長することができました。

これまで参加した数多くのイベントのなかで最も記憶に残っているイベントは2月16日に米

山奨学委員会の皆さまが開催してくれた米山梅吉記念館の訪問です。本イベントから、貴会が創立する前の歴史を知得することができたほかに、引き続きロータリーの奉仕の精神を保有し、可能な限り活動を続けたいと決意しました。

米山梅吉記念館の委員が記念館を案内してくれました。同館の入り口付近には米山梅吉の彫刻物が飾ってありました。館内に進むと、部屋の周辺に米山梅吉の生涯や著作物が飾ってあるほか、これまで貴会が歩んだ歴史が詳細に記録されていました。私は、米山梅吉の生涯を読み続け、人生の歩みに多くの刺激を受けました。日本で初めてのロータリークラブ（東京クラブ）を設立したのは米山梅吉であることを初めて知りました。そして、米山梅吉の著作物を直接見ることは私にとって貴重な機会でした。太平洋戦争により米山梅吉が

創設した東京クラブは解散を余儀なくされました。終戦後、米山梅吉は同クラブの復活に尽力しましたが、復活の場を自らの目で確認することなく永眠されました。しかしながら、今日においても貴会他国との架け橋を築き続けることができるのは米山梅吉の奉仕の精神によるものと私は強く思っています。

貴会の奨学生で得た経験を財産とし、今後もロータリアンや奨学生との絆を大切にしながら、世話クラブやカウンセラーの岡本さんとも引き続き連絡を交わしたいです。今年の4月から大学院に進学します。修了後は日本の自動車企業に勤め、環境保全を目的とした新たな自動車エンジンの開発に向け、歩みを止めることなく前に進みます。この2年間ありがとうございました。

ロータリーのおかげ

Justin Sanders
アメリカ
大阪天王寺 RC
大阪大学

2017年—2019年間に米山奨学生として大阪天王寺ロータリークラブに大変お世話になっておりました。この二年間の間にはさまざまな経験になりました。結婚したり、初めて学術記事を書いたり、日本人の友達を作ったりいたしました。日本語はまだですが、頑張っています。日本に留学するのは従前のイメージと全然違いますが、良いことがかなり多いです。もちろん、博士課程の研究でいっぱい学びました。同時に日本の文化を体験したり、沢山美味しい料理を食べたり、いろんな楽しい活動をしたりすることもできました。

ですが、一番良い経験は米山奨学生になったは間違いありません。二年間はそんな長くないのに、楽しい思い出が多いです。お世話クラブと岡山の美術館、フルタの見学、大雨の花見、や何度分らない美味しく楽しい晚餐会に行きました。奨学生

たけじゃなく、家族のような気持ち感じさせました。外国に住むのことはたまに困難なことなので、その気持ちで非常に感謝します。勉強するために来日しましたのに、お世話クラブのおかげで日本の文化のすごくいいところを経験できました。

これまで約40か国に旅行したことがありますが、日本は非常に特殊で強い文化や習慣があります。日本人の社会的価値、理論、視点などは自分の国とまるで別です。日本に住むことやロータリーの米山奨学生になったことのおかげで新しい考え方を理解できました。これは大事なレッスンだと思います。

さらに、個人のロータリアンの献身や動力を自分の目で見ることができました。お世話クラブの内に、30年間以上ずっと毎週例会などに出席ロータリアンと会いました。本当に感動されました。その特性を非常に尊敬

します。私にとって、そんな献身のおかげで日本のロータリーが強く続けることができました。クラブの活動はこの世界に住んでいる人に強く肯定的な影響があります。ロータリアンさんがそのことを忘れないで欲しいです。

お世話大阪天王寺クラブが私に影響することを表現するのは、ちょっと難しいです。言う将来に私もロータリアンになりたい感じになりました。ロータリアンの皆様の親切や支援に刺激されました。私も同じように強いコミュニティを作りながら、他人の発育を支えたいです。この上の褒め言葉を知りません。

以上のような理由で、留学生として日本に来たことは良い決断だったと思います。将来にはこのような大事なことを、世界を改善するために活かして頑張ります。

スリランカ人の目を見た日本

チャミラー・マッラワーラッチ
スリランカ
大阪御堂筋本町 RC
大阪女学院大学

スリランカ人は日本を「ジャパン」と呼びます。英語で「Water Hyacinth」という植物をスリランカのシンハラ語で「ジャパン・ジャバラ」と呼び、意味は日本の植物です。スリランカのある民話によると、日本人はその植物をスリランカの湖の上にのせたのです。その植物は水の上に普及して水は見えなくなって地面のように見えます。日本人は第二次世界大戦の時敵の同盟国の飛行機はスリランカに着陸すると、地面と間違えて湖の上に着陸して沈むからです。また、スリランカに「ジャパン・バツ」、日本のナス、英語で「Sweet Leaf/ Katuk/ Amame」という食用の植物があります。そのように、「日本」と言う言葉は、スリランカのシンハラ語で「ジャパン」になって、スリランカの一般的な会話に入ったわけです。

反対に、たくさんの日本人、スリランカについて知らないそう

です。私を住んでいるアパートの隣の部屋の人「お国はどこですか?」と聞いて、私はスリランカと答えたとき、「スリランカ?どこですか」と訪ねました。また隣の部屋の人がエレベーターで出会った時、彼は「スリランカは暑い国ですね」と言いました。

また、NHK テレビで放送された「おしん」はスリランカのシンハラ語にダビングされて放送された一番初めの外国ドラマの一つでしたから有名になりました。一般的なスリランカ人の目で見ると日本は「仏教の国」、「桜が咲く国」、または「着物を着る国」です。それ以外にほとんどのスリランカ人は核爆弾の影響を受けた広島と長崎を知っています。

日本は仏教の国だと言われてはいるですけど、日本人の宗教についての認識はスリランカ人の宗教についての認識とほとんど違っていると日本に来たあとで理解しました。宗教はスリランカ人の

人生の一部です。

最近大阪で行われたスリランカの写真展を見に行き、日本にいるスリランカ象のいろいろな話を聞きました。日本にいる一番年寄りの象は「アヌラ」といいます。スリランカの象のお母さんとお父さんに生まれた子供で、かわいい「桜ちゃん」の写真も見ました。

私は日本に来て一番驚いたことの中で一つは日本人の家、部屋と庭がとても小さいことです。日本の人口は多くて土地が狭いから家は小さく作ると聞きました。でも、最近友達のうちに誘われて、日本の田舎の家や庭が広いとわかりました。きれいな青い山で囲まれた大きい庭の実がなっている木や花を見ながら歩くこと、また、夜蟋蟀の音を聞きながらお休みになること、暗い道を歩いて薄暗いランプをつけたお寺にいったことは日本で一番いい経験のひとつになりました。

初心をいだき続ける

錢 雅敏
中国
大阪東 RC
大阪大学

□ロータリー米山記念奨学会の奨学生になって以来、沢山の方々に大変お世話になっており、感謝の気持ちでいっぱいです。優秀な奨学生たちと友達になれたこと、優しいロータリアンの方々と交流が出来たこと、いろいろな活動に参加させて頂けたこと等、これらは全て米山記念奨学会から私に与えられた宝物であります。

奨学生として優遇を受ける一方で、重大な責任も深く感じています。研究に研鑽を積むことも大事ですが、「初心を忘れずに、夢を抱き続ける」という考えを持って頑張ることを自分に言い聞かせています。どうし

てこのような気持ちが芽生えたかと言うと、ロータリアンから「奉仕」という精神を学びました。ロータリアンが世界中に「奉仕」をしており、貧困地域の教育や児童疾患予防や環境保護などの世界問題に注目し、様々な社会福祉事業においてロータリアンの活躍が伺えます。世界平和を願う心が人々の心をつにして、共にロータリアン精神を未来に進めて行っていると思います。

医学研究をしている私は、学業に追われていて論文や研究成果に束縛されている感じもあります。研究者として、業績で判断されることは当然ですが、ただ研究が業績の追求一辺倒

になると、やはり研究の大義から外れてしまい、その意義も無くなると考えます。現在の私は、まだまだ若輩者です。焦らず意欲的に勉強に励むべきですが、10年後更には20年後になったとしても、その時々に関解決できない問題が沢山あるでしょう。その様な環境下でも、初心に戻り堅実に研究をしていく所存です。

どのような先進的技術が革新されても、世界平和の為に生み出されるものではないと思います。今、私は米山奨学生として、温かい庇護を受けています。これらの恩恵を後輩に伝えられるように頑張っています。

忘れることのない一年間

Katirai Amelia

カナダ

大阪中央 RC

大阪大学

年のあっという間の奨学生生活でしたが、これからの人生でも忘れることのない一年間でした。ロータリー米山記念奨学会からいただいた奨学金のおかげで、日頃の経済的不安から解放され、勉学に専念でき、修士課程を修了することが可能になりました。また、博士課程への進学も視野に入れることができ、奨学金のおかげで夢を膨らませることができました。

奨学金による経済的支援以外にも、留学生としての生活が一変し、豊かになりました。毎週例会に参加させていただき、様々な背景の世話クラブのロータリアンの方々と交流する機会となり、学生として狭くなりが

ちな視野が広がりました。世話クラブをはじめとする地区のロータリアン、そして友の会の皆様から暖かいご支援をいただき、ロータリーファミリーの一人として歓迎されたことは最高の心強さをもたらしました。

私の祖父はイランのロータリアンでしたが、イラン革命でロータリーが廃止され、祖父もバハイであったため、革命で亡くなりました。この縁で今回は米山奨学生になり、祖父はロータリアンとしてどのような理想を持っていたか、どのような活動をし、どのような理念を大切にしていたかを理解することができました。また、この一年間でロータリーの国境を越えた素晴らしいビジョンに向けての実

践力と団結力を身で感じることができました。このように絶えず世の改善に向けて、ロータリーの奉仕の精神を基に日頃努めていらっしゃる 2660 地区のロータリアンの方々に深くインスパイアされました。これからは米山学友として、ロータリーの精神を自分の人生で活かしたいという決心が強まりました。

この一年間でできた貴重なつながりと思い出は私の宝物であり、これからの道を照らす灯火でもあります。米山奨学生として過ごしたこの一年間は決して忘れません。本当にありがとうございました。

M. 大阪中央 RC

カタライ、アメリア
カナダ
大阪大学

米山学者としての2年間

Trevor Holdcroft
カナダ
大阪北梅田 RC
大阪大学

皆さん、こんにちは！米山奨学金学生トレバーです。最近大阪大学を修士課程で卒業しました。私の研究は人工知能に焦点を当てております。北梅田ロータリークラブでロータリアンの皆様にお世話になっております。本日はどうぞよろしくお願い致します。

この2年間で私が成し遂げたことについて考えるのはとてもうれしいことです。大阪大学と教授の支援により、私は自分の研究に成功しました。全体的な目標は、透明なオブジェクトを理解するように AI に教えることです。人と違って、ロボットが絵を見るとき、それが何を見ているのかわからない。これは無人偵察機のような、環境をナビゲートしなければならないものにとっては問題です。それで、

ロボットに彼らが見るものを理解する方法を教えることに捧げられる研究の大きな分野があります。2年間の仕事の後、コンピュータビジョンの中で最も先進的な人工知能の1つを作り出すことができ、そして私の新しい技術で将来の研究のための基礎を築くことができました。

私は勉強以外のことでできたことにもとてもうれしいことです。私はここで8つの季節を経験しました、そしてそれぞれのために多くの祭りを楽しみました。私は日本の半分の都道府県に旅行しました。最も重要なことは、日本の文化を本当に評価していると思いますし、この素晴らしい国を体験できたことはとても嬉しいことです。

それ以上に、私は私がロータリ

ーで奨学金の学生としてできることについて最もうれしいことです。お祝い、会員の家への訪問、そして毎月これらの例会に参加することで素晴らしい経験をしました。私は永遠に覚えているという非常に良い思い出があります。このため、大阪大学で時間は、学生だったときよりも有意義です。

ロータリーのおかげで、この喜びはすべて可能になりました。当然、奨学金によって勉強することができました。しかし、ロータリークラブのおかげで、ここでの時間はそれ以上に長くなりました。私は一生に一度の経験をしました、そして受けたすべての支援にとっても感謝しています。本当に借金にあります。皆さん、ご支援いただきありがとうございます。どうぞよろしくおねがいします。

ロータリーとの良いご縁

Shinta Masyta Sipayung
インドネシア
交野 RC
大阪工業大学

奨 学生として採用していただき誠にありがとうございました。一年にわたって支給していただきました奨学金は全額学費に充当させて頂きました。今日まで勉強や研究と並行して地区役員をはじめ、地区米山奨学委員会、学友会、そして私の世話クラブの様々なイベントに参加して多くの日本文化を体験してきました。この経験は私の貴重な財産です。

大学から奨学生の採用を知らされてから、私は配属先の便りが待ち遠しかったです。そして、新規奨学生が集うオリエンテーションで私が交野クラブに配属されることを明かされ、会場で同クラブのカウンセラー・会長・幹事とお会いしました。3人とも多忙にもかかわらず時間を割いてご参加いただいたことを知り、嬉しかったです。初対面にも関わらず、3人とも話

しやすく直ぐに打ち解けることができました。他の交野クラブのロータリアンとは初回の例会でお会いしました。私に明るく声をかけてくれる方々で嬉しかったです。会員は36人、他クラブと比較すると小さいですがアットホームな雰囲気で心地好いクラブです。

私はテレビ中継で交野市の二つの小学校の4年生に「命」をテーマに講演しました。講演内容は母国インドネシアの紹介、日本に留学をしたきっかけと目的、そして現在の研究についてです。日本の子供たちが、私の講演を通して、好奇心が刺激され異文化に興味を持ってくれるとともに健康と命の大切さを育むきっかけに繋がっていれば嬉しいです。本活動のほか、2019年の初例会で10日恵比寿と重なり、お祝いという意味で別のところで例会を行いました。そこで振袖を着用させて

頂きました。また、日本の楽器の「琴」を弾かせていただき、日本文化を数多く体験させていただきました。同クラブのロータリアンと実り多い時間を過ごすことができました。私は、皆さんを日本の家族と思っています。

私は、2018年度のクラブ方針である「感動を与え、人と社会を元気づけるクラブに」を体現できたと思います。これからも周りの人に元気づける人間でありたいです。今年の4月から筑波大学大学院に進学しますが、これからもロータリクラブでの活動を継続したいです。可能であれば例会の際ビデオレターを送信して皆に報告させて頂き、また大阪に来る機会があれば世話クラブに訪問させて頂きたいと思います。ロータリアンとの出会いが私を大きく成長させてくれました。誠にありがとうございました。

米山奨学生になって得たこと

NGUYEN THI TUYET NHUNG

ベトナム
枚方 RC
関西大学

子 子供のころから日本の漫画が好きで、いつか自分の好きな漫画が日本語で読めればと

思い、日本語を勉強しはじめました。日本語を勉強している過程で、日本の文化に興味を持ち、日本語をもっと上手に話せるようになりたいという気持ちが強くなり、日本に留学することは夢になりました。

日本に留学する最初の目的は、日本の生活を実際に体験し、日本の文化に触れたうえ、自分の日本語能力を高めることと、専門的な知識をしっかりと身につけ、自分の研究を進めることです。今考えてみるとそうではないと思います。留学していた期間に、一番意味のある収穫は、異文化で色々体験し、視野を広げて、自分を成長させることです。特に、米山記念奨学会の奨学生になってから本当にそうだと思います。

米山記念奨学会の奨学生とし

て採用された日から、ちょうど一年経ちました。あっという間の一年でしたが、ロータリークラブの皆様のおかげで、この一年間は私にとってとても意味のある一年間になりました。

この一年間の奨学生生活を振り返ると、様々な人々に出会い、様々な面白さを体験し、とても貴重な時間だと思います。経済的な面だけではなく、日本文化への理解を深めることができる様々なイベントや活動などの精神の面でも支援していただいています。そのため、アルバイトの時間を減少し、研究や海外発表などの学業やボランティア活動などに多くの時間をかけることができるようになり、充実した学生生活を送っています。毎月の例会でロータリアンの皆様との交流ができ、卓話を聞かせていただき、自分の視野も広げることができ、大学で身につけられないことをたくさん学べました。また、花見や花火大会、クリスマス家族会などの世話ク

ラブの活動やイベントに参加させていただき、一緒に楽しい時間を過ごして、本当に家族みたいだと思います。

また、米山記念奨学会の様々なイベントや活動を通じ、他の奨学生に出会い、新しい友達がたくさんでき、多文化、多言語に接触するチャンスがあり、様々な国に関する知識を身に付け、お互いの文化をより深く理解することができ、貴重な出会いになります。

ロータリークラブの皆様、特に枚方ロータリークラブの皆様、学友会の皆様、奨学生同士などの様々な方が私の生活に入ってきて、そして支えていただき、誠にありがとうございます。皆様に出会って本当に良かったと思っています。

今後とも、皆様に対する感謝の気持ちを常に持ち、残りの学生生活を充実したものにしていきたいです。

ロータリーとの良いご縁

ALIPOUR YASER

イラン
茨木 RC
大阪大学

私はロータリー米山で私の故郷のイランについて発表しました。イランは、西アジアのイスラム教の国です。イランの面積は日本の4倍で、人口は8200万人です。今回の発表では、5000年前のイランのエンパイアから現在までのイランの歴史について話しました。自然や歴史的な建物、山の中の村、地下の町のような、とても面白い、美しく個性的な観光地について発表しました。

イランは様々な時代の美しい建造物がたくさん存在する、歴史のある国であるからです。例えば、青いタイルを使った建造物は、日本だけでなく世界でも有名です。

また、イランのカレンダーは一

般的なグレゴリアンカレンダーとは異なっています。新年は、3月22日から始まります。これは太陽暦です。イランは日本と同じで四季があり、北部は北海道のように寒く、南部は沖縄のように温かい気候です。

また、文化や行事についても発表しました。西欧の文化がイランに大きく影響しました。そしてこれは現代風へと変化し、ショッピングモールやタワー、ビルなど、至るところで見ることが出来ます。若い世代も、より西欧的な文化に変化してきています。一方で、新年のイベントのようなイランの伝統的な催しも、愛され続けています。

最後に、イランの芸術について説明しました。オイルショックの

あと、手作りのカーペットがイランでの二番目に主要な輸出品となりました。大抵は、主婦たちが時間のある時に作っています。イランのカーペットのデザインと自然の色味はまさに芸術品であり、世界的に有名になりました。また、イランのサフランやキャビア、ドライフルーツなども、世界ではとても有名です。

財団の皆さんに私の国のことをお話出来て嬉しいです。大抵の日本人はイランについてほぼ何も知らず、想像も出来ません。しかし、今では毎年多くの日本の観光客がイランを訪れており、お互いの国についてより深く知るための助けとなっています。

私にとっての日本留学

頼 麗傑
中国
摂津 RC
立命館大学

米 山奨学生になって一年が経ちました、まさに光陰矢の如しです。初めて例会に行った時の緊張と期待の気持ちが昨日のことに思い出されました。

初めて日本に来たのは20歳の春、2016年でした。子供の頃から日本の文化が好きで、高校の時独学で少し日本語を話せるようになって、そのまま日本語専攻を選びました。中国の大学で2年間勉強して、もっと広い世界を見たく、世界中の人々に出会いたいという想いで、日本に留学することを決めました。日本は飛行機でわずか2時間で到着できる近い国ですが、魅力が溢れた国であり、学ぶ甲斐があることがたくさんありました。学校や社会イベントなどを通じて、毎日新鮮な体験と出会うことができました。

2017年の春、先輩や先生のお陰で、私は大学院入学試験で一位を取り、無事に院生になりました。大学院でモバイルヘ

ルスという新しい医療方法のデザインについて興味があり、同じく少子高齢化問題で医療ニーズが深刻になっている中国と日本を背景にして研究を続けてきました。まだまだ未熟ですが、社会のために自分の力を使いたく思いました。その後ロータリー米山奨学会と出会い、摂津クラブの皆様と出会いました。2018年、全く新しい人生が始まりました。

2018年は自分の来日の三年目で、学生時代の最後の一年です。卒業論文や就職活動が忙しく、とても辛い時期もありました。自分は何があったらまずひとりで解決したいタイプです。よくストレスがたまって、眠れなかったりしました。その時期は毎週の例会が私の救いとなりました。摂津クラブの皆様はいつも笑顔が多く、冗談も多くてすごくおもしろいです。一番辛い時は、皆様に会えておしゃべりするだけで自分の気持ちも明るくなって、「まだまだ頑張

れるぞ」と思いました。

皆様は社会に奉仕するという同じ目標で摂津クラブにお集まりになり、皆様の姿を見て、自分はすごく憧れてきました。

ロータリーはもともと「回転する」という意味で、人は社会から支援をもらって、成長してまた社会に恩返しするという「回転」もロータリーの意味ではないかと思います。

自分の力はまだまだ弱いですが、皆様のように人のために何かをしたいです。常に人のために動くという思いを持っていきたいです。

終了式の帰りで西田会長から「人生のコツなどはいらない、思いを込めて頑張れば大丈夫」という言葉をいただきました。なぜか心に残りまして、これからもこの言葉と皆様の笑顔を思っ歩いていきたいと思っています。

奨学生で 得たものについて

張 彤
中国
大阪南 RC
大阪大学

み なさん、こんにちは、
大阪南ロータリークラブ
でお世話になってい
ます奨学生のチョウトウと申し
ます。出身は中国で、現在大阪
大学経済学研究科に所

属しております。今年の4月から
東京に引っ越し、双日株式会社
で働くことになりました。ここで
一年間お世話になっていたロー
タリークラブのみなさんに感謝
したいと思います。また、ここで
学んできたことや感じたことを
みんなとシェアしたいと思います。

ロータリー米山記念奨学会
の奨学生としての一年間を経
て、得た二つのことをシェアし
たいと思います。一つ目はロー

タリーアンの奉仕精神と心の
優しさを学んだことです。去年、
精神的にも身体的にも苦しん
でいた就職時期に、ロータリー
クラブから物質的と精神的
に支援していただきました。奨
学金のおかげで、就職時期に
お金の負担を減らしてくれまし
た。それとストレスがたくさん
溜まった時期に、自分のカウ
ンセラーを含めロータリークラブ
の方々は私の悩みを聞き、励ま
していただいたおかげで、一歩
前へ進む勇気が出来ました。サ
ポートしていただいたクラブの
方々に本当に感謝しております。
また、ロータリークラブのカウ
ンセラー制度に関して非常にあ
りがたいと思っています。海外
においても家族みための暖
かさを感じられました。中国に
帰るたびに、カウンセラーから
家族への日本のお菓子をいっ
ぱいいただきました。また、カウ
ンセラーの工場に見学したり、
家族と一緒にご飯を食べたりす
るのは本当に楽しかったのです。
この奉仕の精神と優しさを
継いで、将来にも困っている人

を助けて、支えていきたいと思
います。

二つ目は日本の文化により深
く学ぶことができたうえ、たく
さん友達もできたことです。会
長やカウンセラーから誘って
いただいたクラブのイベントと地区
のイベントにたくさん参加して
いるうちに、文楽や宝塚などの
日本の伝統的な文化により深
く学ぶことができました。また、
例会に参加するたびに、カウ
ンセラーから日本の食文化や商
習慣、テーブルマナーなどの日
本文化をいろいろ教えてくれま
した。この異文化交流の精神も
継いで、日本と母国の架け橋に
なることを努力していきたいと
思います。

ロータリークラブのみなさん
と出会って本当に運が良かった
と思っています。今後とも
この感謝の気持ちと奉仕の精
神を持って、これからの生活を
歩んでいきたいと思っています。
第2660地区のロータリーの皆
さん、本当にありがとうございました。

「今までの私」

方 嘉雯
マレーシア
大東中央 RC
大阪産業大学

去年の4月から幸いことに米山奨学生になり、大東中央ロータリークラブにお世話になっております。岩本静江カウンセラーを始め、クラブのロータリアン達が私の面倒をみてくださって、心から感謝しております。

2018年11月7日に大東中央ロータリークラブで卓話をする機会をいただいて、「今までの私」というタイトルでマレーシアのことと自分のことについて紹介しました。マレーシアからの留学生です。フォン・カーマンと申します。今は大阪産業大学経営学部経営学科の三回生です。まずは少しマレーシアのことを紹介させていただきたいと思います。マレーシアは東南アジアのマレー半島南部とボルネオ島北部を領域とする連邦立憲君主制国家で、イギリス連邦加盟国である。タイ、インドネシア、ブルネイと陸上の国境線で接しており、シンガポー

ル、フィリピンと海をはでてて近接します。マレー系、中華系とインド系の三つ主要民族と地域の歴史が複雑に入り混じって並存するマレーシアは、民族構成が極めて複雑な国の一つであり、多民族国家である。それで、マレーシアではマレー語は母国語でありながら、様々な言語も使われています。ですので、自分も日本語以外、英語、中国語、マレー語と広東語が話せます。自分は家族の中では主に英語と広東語を使って話しています。両親は中国語が話せなくて、自分の子供たちが話せてほしいということで、お姉さんと私を小学校から中国語を使われている学校へ行かせました。マレー語は母国語なので、皆マレー語を勉強しなければならなりません。ということで、小さい頃からマレー語、英語と中国語三つの言語も勉強しなければなりませんでした。小さい時それはすごい嫌でしたが、今の私

は両親に感謝し、たくさんの言語を勉強させてよかったなと考えようになりました。

一年半くらい前、国際交流課の先生にロータリー米山記念奨学金を勧められました。自分はこのような素晴らしい奨学金をいただけるなんて思いませんでした。合格したというメールが届いた時すごいびっくりし、信じられないぐらいでした。この奨学金をいただいた前に、私は掛け持ちでした。しかし、今は皆さまのお陰様で、アルバイトの量を減ることができました。それで、取りたかった資格も取ることもできました。秘書検定2級と日本語能力試験NI両方も合格できました。今までの私は不足しているところはたくさんあると思いますが、これからも頑張っていきたいと思っています。本当に皆さまに感謝しております。

米山奨学生になって 素晴らしいこと と思う

NGUYEN MINH THU

ベトナム
東大阪東 RC
大阪商業大学

私は東大阪東ロータリークラブのグエンミントゥーと申します。ベトナムから参りました。去年の4月から米山奨学生として選ばれ、今までの1年間、カウンセラー北川様と東大阪東ロータリークラブの皆様と一緒に活動をして、本当に素晴らしい経験をさせていただきました。

勉強の場面で前、バイトをいっぱいして時間もとてもかかってしまって勉強するのがあまり集中できませんでした。両親は結構学費を支援していただきました。大変でした。米山奨学生になって、皆様のおかげで、バイトする時間が減って学費も楽になって勉強するのが集中できるようになりました。専門の研究の知識をちゃんと勉強になり、それと米山の知識も勉強になりました。とても感動しまして、素晴らしいと思っています。今年まで全部必要な単位が取れていて、良かったです。今年、論文だ

け集中してちゃんと書いて良い結果をもらえるようにと思っています。そして、論文だけではなく、卒業するまでNIと簿記の資格に受験しようと思っています。

生活の場面で前、バイトをいっぱいして、寝る時間が少なく、食べる時間もグチャグチャになって、本当に生活する時間があまりよくなかったです。米山奨学生になってから生活も良くなりました。とても良かったです。

そして、米山の皆様のおかげで、色々な交流するチャンスをしました。他の国の奨学生の皆たちと一緒に旅行に行って、一緒に喋ってとても面白かったです。去年、関西大学のキャンパスで三日間「輝け！今、未来のために！」という春のRYLAセミナーに参加しました。巽樹里さんの講演を聞かれてとても面白くて、自分の将来について色々な

ことを考え直しました。それだけではなくゲームしながら研修もできました。春RYLAセミナーに参加してたくさん友達ができるようになって人間関係についても勉強になりました。三日間の思い出が忘れられないです。

特に、今東大阪東ロータリークラブの交換留学生のリザと出会いがあります。フランス人です。とても若くて、可愛い女です。日本語があまりですが、とても頑張っていると思っています。好きです。

最後になりますが、東大阪東ロータリークラブと米山の皆様とは心からいつも感謝しております。後もう一年、また頑張っていきます。社会に出たら、社会に頑張って役に立つ人になります。将来、米山記念奨学会の目表に関して自分の力はちょっと貢献できるように頑張っております。

留学生生活の感想

郎 宇
中国
大阪ユニバーサルシティ RC
大阪市内立大学

私は母国の大学を卒業してから約2年間、中国の大手ゼネコン会社に施工技術者として勤務した。そのとき、私は高速道路新設工事の橋梁およびトンネルの施工を担当していた。社内をはじめ、発注者との打合わせ、協力会社との施工調整、近隣住民への説明など、多方面へ関わる仕事を経験した。私は土木分野に自分の経験と知恵をもっと発揮したいとの思いで、6年前、中国での仕事をやめ来日した。日々忙しい研究生活とアルバイトによって、あっという間に6年間で過ごした。振り返ると非常に充実した6年間でした。

最初に、研究を始めて早くも言葉の壁にぶつかり、研究室の仲間と日々会話をしながら、表現を教えてもらうことで乗り越えることができました。そこで、日本の方の助け合う精神を強く感じました。また、「礼儀の国」という4文字をカンペキに

理解しました。エスカレーターではみんな片側に整然と一列になって立ち、急いて行かなければならない人のために左側通路を開けておくこと、バス停では秩序を重視し一列に並んで待つこと、ゴミを厳格に分類すること、街にゴミ箱は多くないにもかかわらず、道はきれいであること、犬の散歩時に責任をもってフンの後始末をすることなどなど、すべてが整然と秩序立てて行われているのには感銘を受けざるを得ませんでした。この5年間は日本人の長所を学んで自分の短所を改善すべきところがよくわかりました。

2018年4月から博士2年となり、研究助成協会、企業などとの共同研究が非常に忙しくて、国内学会発表、国際会議、査読論文の投稿なども増えてきて、後輩への研究、実験などの指導も増え、アルバイトをすることはできませんでした。貴

奨学会から奨学金をいただき、本当に助かりました。また、この一年間、ロータリアン、学友、奨学生達と仲良くして、また、例会の卓話で、日本の様々な分野の方々から貴重なお話を伺え、社会人としての上手な話し方を学びつつ、その裏、人生に対する理解や考え方などとても豊かになってきたと感じています。さらに、大阪ユニバーサルシティロータリークラブ主催の社会奉仕活動に参加し、非常に感銘を受けました。例えば、「夢ある感動を！そこから始まる未来のために！」をテーマに41名日頃は施設で集団生活を送る子供たちに家庭的なぬくもりを感じてもらえるため、子供たちと一緒に一日USJで過ごしました。間違えなく、この一年間は私の今までの留学生活の中に、最も充実した時間だと思えます。皆様に言葉を尽くして感謝しております。これから、社会に役に立つ人間になれるように、精一杯頑張ります

ロータリーから得たこと

来 方远
中国
大阪城東 RC
関西医科大学

“学

生生活”？この言葉を見た瞬間、皆さんは毎日の勉強を思い出すでしょうか？特に医学生。

最初日本に来た2年間、私は本当にそんな生活を過ごしました。毎日の勉強と実験ばかりです。学業の忙しさは現実ですが、正直に言えば、節約も大切な原因です。

三年目に入った後、勉強以外にもいろいろなものを体験できました。それは大阪城東ロータリークラブの皆様のおかげです。

経済的な援助だけではなく、城東クラブの皆様は人間関係の方面をもっと重視しています。皆様と一緒にいる時、本当に家

族のような雰囲気を感じていました。

毎月例会の時、皆様のご発表から、ロータリー米山の歴史など、たくさん以前よく知らないことを学びました。

例会で、おいしい食事をいただいて、それから日本の食事文化やテーブルマナーを身につけました。和食以外、ハワイ風のプールサイドパーティーも参加しました。おいしい焼肉を食べながら、踊りをして、まるでハワイにいるような感じでした。

8月の時、阪城東夏まつりロータリー店番のお手伝いしました。お客様がずらり並んで、私たちの飲み物を買ってくれて、本当に嬉しかったです。途中で、

ビールの機械は故障になってしまって、泡だらけ出て来ました。店番の皆さん自力で飲むしかありませんでした。ビールを飲みながら、おばあちゃんたち踊る姿を見たり、子供たちの笑い声を聞いたり、幸せな時間を過ごしました。ロータリーは奨学生の家族にもお世話にいただきました。

二年間の奨学生生活はすぐ終われると思いますが、皆さんの「縁」は切りたくないです。中国に帰ったら、ロータリーの精神を忘れずに、中国にも広げたいと思います。日本人の方々の優しさも中国の皆さんに伝えたいです。日中関係の架け橋になりたいと希望しています。

私の人生のターニングポイント

黄 麗儀
マレーシア
大阪柏原 RC
大阪教育大学

日 本に留学することは私にとって人生の大きなターニングポイントです。マレーシアの短期大学を一度卒業したことがあるため、来日の時の私は既に 27 歳でした。毎月の仕送りではなくて、親から 40 万円のサポートを頂いて、留学生活が始まりました。

日本に来たばかりの時、一年生と仲良くなりたい為のゼミ旅行がありました。ゼミ旅行の参加費は 2 万円が必要で、その時の大学寮の一ヶ月の家賃は 1 万円でした。もしゼミ旅行に参加したら、二ヶ月分の家賃が払えなくなります。皆と仲良くなりたいにもかかわらず、生活面の方が大事なので、行かない方を撰択しました。外食が高いから、毎日家で料理を作り始めました。とりあえず、節約しようと思いました。

日本に来たばかりなので、学生の仕事は勉強だから、学業に集中して良い成績を取ろうという考えが続きました。一年生後期、日本の生活にだんだん慣れてきてから、先輩の紹介で派

遣会社のアルバイトを始めました。着ぐるみを着たり、サンプリング配り、アンケート調査、接客販売など、いろいろなバイトを体験しました。

派遣会社のバイトは数があまり多くなく生活費がギリギリなので、とても厳しかったです。貯金もどんどん減っていて、お金がいつなくなってしまうか心配でした。学業と生活を両立することの難しさを実感しました。

大学1年生と2年生の時、一生懸命に学業に集中して、留学生の中で一番良い成績を取りました。その結果、大学からロータリー米山記念奨学金に推薦されたという機会をいただきました。「努力をすれば必ず報われる。自分も諦めないで頑張ろう」と強く思いました。そして、ロータリー米山記念奨学生に採用されました。

米山ロータリー奨学生になったことは二つ目のターニングポイントです。私がロータリー米山記念奨学生になってから一年になりました。この一年間は、毎月世話クラブの例会に参加す

るだけではなく、クラブの社会奉仕事業、春の家族会、忘年会にも積極的に参加させていただきました。地震の時、大丈夫ですか？というメールもあり、お金のことは大丈夫ですかと、いつもおっしゃってください、クラブの方は優しい人ばかりなので心が温かく感じます。

ロータリー米山奨学金をいただいて生活と学習の両方の支えとなりました。毎月お金の心配や悩みがなくなりました。自分の学業や作品づくりがもっと集中できるようになりました。米山ロータリー奨学会を通して、色々な人々と出会えることができ、自分の価値観を変化させてくれました。たくさんのことに挑戦し、自分のことをよりよく理解することができました。それ以外にも、学友会の活動にも多く参加させていただき、自分の世界を広げることができる大事な一年となりました。

今後も米山ロータリー奨学生として、感謝の気持ちを忘れず、毎日頑張っていきたいと思います。

ロータリーにいた一年

曾 佳荷

中国

大阪アーバン RC

大阪ハイテクノロジー専門学校

大阪アーバンに入ってもう一年が経ちましたこの一年間、毎回お客様として例会に参加させていただき、私はもう自分が大阪アーバンの一員であると感じています。実は私から皆さんに話しかけるのが当たり前なのですが、逆によく皆さんから声をかけていただき、ありがとうございました。毎回カウンセラーさんに話してばかりですみませんでした。私たち奨学生にとってカウンセラーに会えてありがたいことです。

ここの一年で、変わっていないことがたくさんあります。たとえば私の身長、ロータリーの奉仕の精神です。変わったこともたく

さんあります、例えば私の髪が長くなって、日本語が上手になったことです。一番大切なのは私が日本が好きになったことです。以前、私が知っている日本は中国のドラマの中のものでした。日本は遠いところだと思っていましたが、今日本に来て、帰属感が出ました。

たまに疲れることもあるし、自分は何のために、生きていると悩むことがあっても、水曜日ここに来て、皆さんの素敵なお顔を頑張っている姿に励まされました。間もなく私は日本語学科を卒業します。この間に地震のことがきっかけで日本人と日本で生活している外国人違う点に気づきました。日本で

生活している外国人も日本社会を構成する一員だと思います。そこで、私たちは区役所の方と話し合って何か私たちにできることがないか相談したところ、地域の人たちと一緒にイベントをしたり、小学校に行ってボランティアをしたり、できることになりました。どうして私が日本人と手をつながりたいかとか、ロータリーで皆さんから輪の精神を学んだからです。

私はロータリーに心の底から感謝の気持ちを持っています。これからも皆さんと共に手を繋いでもっと大きな輪を作りたいと思います。

ロータリーに 出会って、 自信が戻った

趙 雨桐
中国
箕面 RC
大阪大学

多数の中国人学生の中、私は普通な一人だと言えます。いい子のふりをして、誰かに認めてもらいたかったです。勉強が大好きですが、試験に苦手で、誰から注目されず、平凡の学生時代を終わってしまいました。

日本に留学してくることがきっかけだと思い、本当の自分を探し出し、もっと自信を持つようになりました。

留学のこと、お父さんから大反対されました。「帝大でなきゃ、他の大学を考えもしないで」と言われました。自分も気が進まなくて、「帝大に行ってみせる」と心の声がしました。仲介会社を雇うお金がなく、自分でゼロから研究室を探し、連絡しました。幸い、今の教授先生が私を受け入れて、興味のあるがんについての研究もできました。自分が研究に対する熱意を認めてくれました。

正式生になってから、奨学金を申請し始めました。ロータリー米山奨学金が中国人留学生の間ですごく有名で、自分は奨学生になれるかと心配していました。他人に負けない研究成果があると考え、自分を励ました。最後に自分の予想を超えて、面接官が私の努力を認めてくださいました！

ロータリー奨学生になって、箕面世話クラブに入りました。研究生活が忙しくて、ロータリアンたちに迷惑かけるのも良くないと考え、例会は月一回しか行っていなかったが、毎回の例会を本当にすごく楽しみにしていました。一番感動したのは、例会開始前の挨拶と自分の卓話、または奨学金をもらった後の一言の時間です！ロータリアンたちが優秀で忙しい、ご飯の時でも仕事について物事を考えると思いました。しかし、みなさんが自分の話をちゃんと聞いてくださ

いました！みなさんが自分のことを認めてくれました！

認めてくださいましたこと、心より感謝します！今は自分の成長を感じできます。以前留学を反対したお父さんが、自分のことを誇りだと言われました。人前で恥ずかしがった自分は、学会で堂々と自分の研究成果を発表できるようになりました。就職でも、選ばれる立場から自分が選べるようになりました。

「世の中には偶然などがない、あるのが必然だけ」、以前アニメを見たときこういうセリフがありました。努力すれば、自分の存在を認めてくれる人たちが絶対にいます！成績とかどうでもいいと言い過ぎですが、もっと遠い未来を見て、胸を張って、自信を持って歩くべきです！

留学しに来てよかった、奨学生になってよかった！

How Rotary Change My Opportunity in Japan

RIZKY FAJAR PRATAMA
インドネシア
高槻東 RC
立命館大学

After becoming a Rotary Yoneyama Scholarship student, my life in Japan has changed into a different direction. The life in Japan has become more interesting, with gaining many new experiences and being able to make new friends from different universities and having a connection with the Rotarian, where I can learn new knowledge and experience new Japanese culture.

Currently, I'm being taken care of by the Takatsuki Highashi Rotary Club, and I'm truly grateful that I was able to join this club. In this Rotary club, I was able to learn new things and able to receive opportunities that I would never imagine being a student in Japan. With being able to participate in "reikai" not only making a connection with the Rotarian but with

great people who have more experience, I was able to learn more about Japanese culture and hear a story about how they succeed in life. Also, in February I was able to join "移動例会", where it was another great experience that I would have never imagine that I would be able to get. In the "reikai" we went to "八つ橋としゅうやかた" where I was able to learn and experience how to make Japanese sweet called "yatsushashi". after having the experience of making yatsushashi, we went to "サントリー山崎蒸溜所" where I was able to learn and see how the Suntory Yamazaki Whiskey is made. It was very new for me because I never knew how whiskey is made, and not only that I was able to try different kinds of whiskey that the company produces. Joining the Takatsuki Higashi Rotary Club, I was not only

able to learn and gaining experience but also to have a family in Japan.

Having able to receive such an amazing award, the Rotary Yoneyama Scholarship, and being part of it, I'm truly grateful for letting me have such an unforgettable and one of the best experiences that I was able to receive from studying abroad in Japan. With having this kind of opportunity and getting a lot of experience, now I'm more convinced that I want to be the bridge between my country and Japan, and if possible not only my country but also between Japan and the World. Once again I'm truly thankful for the best opportunities that I have received from the Rotary Yoneyama Scholarship, Taktsuki Higashi Rotary Club and all the Rotarian.

ロータリー米山奨学生学友会（関西）

2017年度会計収支決算書

自2017年7月 1日

至2018年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	1,138,208	
特別補助金	450,000	国際ロータリー第2660地区
会報補助金	49,150	米山記念奨学会
総会収入	850,000	
寄付金	50,915	
総会補助金	111,000	米山記念奨学会@3,000×37
懇親会収入	2,714,214	
懇親会補助金	90,000	米山記念奨学会@3,000×30
熊本募金収入	150,000	
利息収入	9	
総計	5,603,496	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	78,947	
会報作成費	98,300	
総会費用	799,753	
懇親会費用	3,066,607	
雑費	3,780	
熊本寄付金	200,000	
次年度への繰越金	1,356,109	銀行 1,211,527円、現金 144,582円
総計	5,603,496	

以上ご報告申し上げます。

2018年7月8日

会計 東 林華



会計監査報告

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査 李 麗俞



ロータリー米山奨学生学友会（関西）

2018年度会計予算書

自2018年7月 1日

至2019年6月30日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	1,356,109	
特別補助金	354,850	国際ロータリー第2660地区
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
総会収入	800,000	
総会補助金	150,000	米山記念奨学会 @3,000×50
懇親会収入	1,000,000	
懇親会補助金	90,000	米山記念奨学会 @3,000×30
利息収入	10	
総計	3,850,969	

支出の部

科 目	金 額	備 考
運営費	100,000	
会報作成費	200,000	
総会費用	1,000,000	
懇親会費用	1,300,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	1,240,969	
総計	3,850,969	

以上ご報告申し上げます。

2018年7月8日

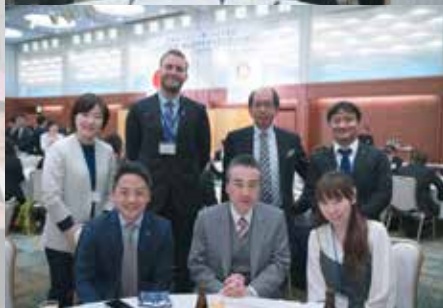
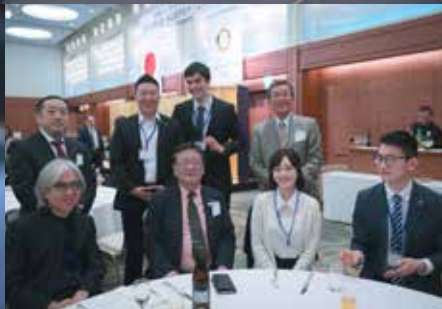
会計 東 林華

2018-2019 活動リスト

1. 米山新規奨学生オリエンテーション一泊二日 (2018/4/4)
2. 米山新規奨学生オリエンテーション (2018/4/5)
3. 米山運動会 (2018/5/12)
4. 米山総会及新規奨学生歓迎会【Action with Smil】 (2018/7/8)
5. 米山学友会第1回役員会 (2018/7月)
6. 秋懇親会 (一泊二日) 竹田城散策 (2018/9/15～16)
7. 地区奨学金委員会主催米山奨学生レクリエーション大会 (2018/10/21)
8. RI2660 地区 2018～2019 年度地区大会 (2018/12/7-8)
9. 年末忘年会 (2018/12/8)
10. 2018/12 (第16回ロータリー X'mas in USJ) 大阪ユニバーサルシティロータリークラブ
主催。施設の児童を招待し、学友会は一日親として：応援参加
11. 米山学友会第2回役員会 (2019/1)
12. 次年度米山奨学生面接試験：応援参加 (2019/1/26)
13. 地区奨学金委員会主催の米山記念奨学生終了式、歓送会 (2019/2/24)
14. 2018－2019 年度 米山感謝祭 (2019/3/2)
15. 2019 年度米山学友会第3回役員会 (2019/3/10)
16. 関西学友会会報 (35号) 編集・校正・印刷・図案 (2019/2-4月)



米山新規奨学生オリエンテーション





新規奨学交流会（運動会）

アリフ ザイニ

2017-2019 年度米山奨学生学友会（関西）副会長



昨年の5月中旬に新規奨学生向けに運動会と交流会を開催しました。参加人数は約50人です。新規奨学生はその半分で、交流会が成功となったかと思います。

例年では4月のオリエンテーションが終わったら、7月の総会まで米山奨学生関係の行事がなく、その間は新規奨学生との交流機会がありません。また、オリエンテーションは平日に行われるため、仕事でそもそも参加できない学友メンバーがほとんどです。そして、奨学生の観点からみると、4月に行われたオリエンテーションの後に、よくわからない団体の総会に7月に参加しなければならないことになっています。そのため、昨年度に新規奨学生との交流会を始めました。

この交流会は、より早い段階での奨学生同士の絆作りと学友との交流を目的としました。手段はなんでもよかったのですが、5月の天候がいいことと、体を動き出しながら交流したかったということから、入園料がかからない服部緑地公園で運動会の形にしました。

交流会を4部に分けました。第1部では、簡単な挨拶、チーム分け、互いの自己紹介とラジオ体操を行いました。第2部では、簡単なゲーム（逆3脚レース、しっぽ取りゲーム）を行い参加者同士の距離を少し縮めました。第3部では、メインイベントである宝探しゲームを行いました。この宝探しは、各チームが公園内の全体を回り、あらかじめ設置してあったヒントを探し、問題を解いていく形で、体だけでなく頭の運動もしました。1時間も各チームと一緒に歩いたり、一緒に考えたり、一緒に雑談したりしてたくさん交流ができたかと思います。そして最後に、第4部ではお弁当を食べながらみんなでワイワイしました。

所感としては、まず実施してよかったと思います。この運動会を開催することにより、早い段階で新規奨学生に学友と交流の場を設けることができました。その結果、他の行事においても、昨年度と比較し、奨学生の参加率が全体的に上がりました。このように、来年度もオリエンテーション後に新規奨学生と交流するイベントを必ず開催します。





2018 年度米山総会及び 新規奨学生歓迎会 「ACTION WITH SMILE」

ディネス シュレスタ
2017-2019 年度米山奨学生学友会（関西）会長
（宝塚武庫川RC）



国際ロータリー第 2660 地区、
米山奨学生学友会（関西）の
2018 年度総会及び新規奨学生の
歓迎会は 3 部に分かれて行われま
した。テーマは「ACTION WITH
SMILE」。

第 1 部は会長の挨拶からスタート、去
年度・今年度活動報告、会計報告、
事業計画などの報告がありました。そ
の後には役員の紹介をされました。

第 2 部では吉村 正裕先生より「SNS
での危機管理」の内容を基軸にして、
"外国人留学生用" にアレンジして、
60 分間特別講演をされましたがロ
ータリーアンの先生方にも大変ご好
評でした。とてもタイムリな話にみな
さんが釘付けでした。

第 3 部は懇親会、海外の学友会によ
る挨拶、余興では「米山教室」、学友

たちの笑いにしたクイズが参加者み
んなを大いに笑わせました。

新規奨学生 36 名の紹介の時は世話
クラブのロータリアン先生方も応援
しながら見守っておられました。この
懇親会では世話クラブのロータリア
ンの先生方と学友・奨学生の交流も
ありました。

地区学友会会長をはじめ、海外から
（韓国学友会、台湾学友会）を含む
日本国内他地区の学友の会長・役員
多数の参加で例年に比べて一番多い
学友の大集合になりました。

最後にはロータリーソング「手に手つ
ないで」を全員で歌って盛大に盛り上
がった総会の閉会となりました。

ロータリーアン 87 名、現役奨学生
36 名、学友 43 名、家族・他 25 名
計 191 名の参加





米山学友会秋懇親会に参加して

加藤正雄
大阪大淀 RC

2019年9月15日、16日に行われた米山学友会主催の秋の懇親会に初めて参加しました。参加のきっかけは、2019年の4月から大淀ロータリークラブとして受け入れた米山奨学生のソフィさんが参加するということで、カウンセラーの私が参加しないのはいかがなものかと思い、勇気を出して若い人達の中に飛び込みました。

集合場所である大和ハウス大阪ビル前に行くと、すでに米山学友会員、米山奨学生たちが楽しそうに語り合ったり、以前にご挨拶した米山学友会の世話人の方々もおられ、年配の私（自分では若いと思っていますが）はちょっと気後れしながらも挨拶すると、皆さん笑顔で挨拶を返してくれて、ホッとする。しばらくするとソフィさんも来たので、やっと普通にその場に溶け込むことができました。

そして、いよいよバスに乗り込んでいざ出発。今回の秋懇親会で私の一番の関心は、「天空の城と言われる竹田城跡」の雲海に浮かぶ姿を見ることでした。できれば宣伝に使われているような雲海に浮かぶ竹田城跡が見れば最高と思いながら、まずは、最初の見学地である「生野銀山」に到着。

関西に住んでいながら訪れたのは初めて。あまり大したことはないだろうと思い、まずは資料館に。そこで見た当時の炭鉱の仕事ぶりに仰天！現代のように機械化されていない時代に

人力主体で、縦横無尽に穴を掘りめぐらして、銀を採掘していたなんて夢にも思いませんでした。閉所恐怖症の私にはまずできない仕事！資料館のあとは実際に生野銀材の中に入っていました。驚くことばかり。人間の力のすごさに改めて感動！

生野銀山の後は、楽しみの一つであるお宿に到着。夜はみんなとわいわい言いながらバーベキューとお酒で、テンションUP！色々な国の若い人達と語り合うことができ、普段では味わえない一時を経験できました。米山学友会員、米山奨学生は皆さんGood！でした。

翌日はいよいよ待ちに待った竹田城跡。朝はまだ暗いうちに宿を出発し、竹田城跡を眺めることができる立雲峽展望台のある場所に到着。展望台までは歩いて登山。老体？に鞭打ち景色のいい場所取りを目指して黙々と登山。

しかし、あいにくの曇りで期待した雲海の竹田城跡は見る事が出来なかったが、それなりの雲海に浮かぶ竹田城跡が見れたのはまあまあかな・・・。

その後ホテルに戻って朝食を食べた後は竹田駅周辺寺町通を散策。昔ながらの街並みとゆったりとした時間の流れを満喫。そして大阪へ。楽しい2日間をありがとうございました。また参加したいです。

以上





宝塚について

ホーファー・ファビエン 守口 RC



私は昨年の春になって以来米山奨学生となり、守口ロータリークラブのお世話になっております。守口ロータリークラブでは皆さんが優しく、積極的にお声をかけてくださるおかげで、幅広いことについてお話をすることができ、とても嬉しく思います。

そして米山口記念奨学会では、世界のあらゆる地域からの奨学生と友達になり、一緒に様々な活動に参加し、素敵な体験を通じて思い出をたくさん作ることができました。その中で最も印象深かったのは、宝塚演劇でした。それには主に二つの理由があります。まず、私は大阪大学で研究ができるとことが分かった時、女優さんが女性役も男性役も演じる関西の固有な劇団の演劇を必ず観ようと決めました。しかしながら、一人で劇場に行くとなると、心細く寂しいような複雑な気持ちを抱きました。ですから、

米山口記念奨学会の他の奨学生と自分のカウンセラーと共に演劇を観に行くという貴重な機会をいただいたことは、とても喜ばしいことでした。

ウキウキしていた私は、ヨーロッパのお城の形をしている劇場に入る瞬間、まるでおとぎの国に足を運み入れたかのような気がしました。階段からホールまで敷いてあるレッドカーペットを観た時には、ディズニーの「美人と野獣」の中の印象的なシーン、つまり美人と野獣が階段から降りて、ホールでダンスするシーンを思い出さずにはいられませんでした。

後の席に着き、ライトが消えた瞬間、私たち観客は西洋のおとぎの国から日本の平安時代へと運ばれました。この神妙な場所では、非常に工夫の凝らされた舞台装置のおかげで、私たち観客は素晴らしい桜吹雪やお姫様の世界などを体験することができ

ました。そして、しばらくして宝塚の女優さんが私たちをこの夢幻的な世界から、ルネサンスのイタリア・フィレンツェの家並

まで案内していただきました。ここでは、私たちはレオナルド・ダ・ヴィンチとカテリーナ・デ・メディチの恋愛のための政界との戦いを観ることができました。

俳優さんの素晴らしい演技、鳥肌が立つような歌声、色鮮やかなコスチューム、そして以上に述べた立派な舞台装置のおかげで、私たち観客の時代と空間を超越する旅が無事に終わったのでした。米山口記念奨学会のおかげで、このような生き生きとした演技を皆さんと共に体験し、さらに演劇が終了した後、それぞれの感想を交換し合うことができ、非常に楽しく心に残る思い出となりました。本当にありがとうございました。





ロータアクトとの スポーツ交流会

アリフ ザイニ

2017-2019 年度米山奨学生学友会（関西）副会長

月4日に服部緑地公園でロータアクトとのスポーツ交流会を行いました。参加人数はロータリアンやご家族の方を含めて約50人と大きく盛り上がりしました。

これまで米山学友会は、同じロータリーファミリーなのに、他団体若者同士との交流がありませんでした*1。それで米山学友会がロータアクトに、互いの奉仕活動に参加し合うほど仲良くなることを最終目的とし、まずは互いのことを知るために交流会をしないかと提案しました。実行委員会を結成し、何回か打ち合わせを重ねるうちに、体を動かすほうが交流しやすいということでスポーツ交流会というテーマに設定し、具体的な内容を決めていきました。

いよいよ当日に、朝早く実行委員が集まり会場を設定しました。開始挨拶の後、チーム分けを行いました。ロータアクトと米山学友会の人数がチーム内で均等になるようにチームを分けました。チーム内の自己紹介が終えた後に、大阪大学の体育講師を務められている陳さんが準備運動を率いました。



スポーツ大会の本番では、4種類のゲームを行い全員参加しました。そして最も盛り上がったのは短距離競争リレーでした。参加者全員を大きな2チームに分け、各チームから最も速い4人を出してもらいました。

スポーツ大会後みんなで弁当を食べながら親睦を深めました。また、ロータリアンの仲西さんはアイスクャンディを用意してくださり子供たちが大喜びでした。閉会挨拶後にみんなで集合写真を撮り、解散となりました。

所感としては、普段交流することのないロータリーファミリーの若者同士で交流ができてよかったと思います。もちろん、ロータアクトと米山学友会はこの一回だけで、両団体同士が仲良しといえるかというと、まだまだですが、第一歩を歩み始めたと感じました。今後、このような活動（場合によっては地区学友会も混ぜて）やっていきたいと思います。

*1 地区学友会の活動によりも、この問題は徐々に解決の方向に向かっています。





クリスマスパーティについて

Alifianto Adi Nugroho



12月9日に恒例のクリスマスパーティーを行いました。例年では、卒業生である米山学友会が企画・実行しましたが、今回は実行委員長の私を除いて、実行委員全員は現役の奨学生でした。

現役の奨学生は、若さというパワーで、とてもフレッシュなアイデアを提案してくれました。例えば、ゲームコーナーでは「どんでん返し」の要素を取り入れて場を大きく盛り上げました。

あっという間に2時間が経ち、残念

な気持ちでお開きをしました。最後に恒例のプレゼント交換を実施し、お店の外で道頓堀川を背景に集合写真を撮りました。外はとても寒かったですがなんとか写真が撮れました！

今年も、地区委員会の方々や、カウンセラーの方々、米山学友会と現役奨学生多く参加いただきました。また、RACとのスポーツ交流会のおかげでRACおよび地区学友会からも数名のご参加もいただきました。来年も実施しますので、ぜひご参加ください！





感謝祭－奨学生代表スピーチ

み なさんこんばんは。大阪西南クラブの楊晨です。

本日はこの場をお借りして、私の話とみなさんへお礼をスピーチしたいと思います。

今から二年前のわたしは、周りに自慢できるほどのものは何も持っていませんでした。合格していたのに第一志望の医学部へ入学することができず、優秀だと言われていた、医者と外交官である祖父母からは半分冗談とはいえ、家の恥さらしだとまで言われる始末で、この先どうしたらいいのかと暗い日々を過ごしていました。

しかし、今、米山奨学生として採用されたことが私にとっての誇りで、一番自慢できることです。

ロータリーという大きなファミリーの一員となってから約一年が経ち、わたしの生活は大きく変わりました。世話クラブの例会への出席や奨学生が集まる機会だけでなく、様々なイベントを通してこれまで経験したことなかった学びの機会をたくさん得ることができました。去年春のオリエンテーションをついこの間終えたばかりのようなあっという間な1年間でした。

今の私にとって一番温かさを感じるもの、それはカウンセラーの上田さんや所属している大阪西南ロータリークラブ、いつもお世話になっているロ

ータリアンの方々はもちろん、ロータリーにかかわるすべての方たちの存在です。昨年地区大会直前に骨折をしたとき、すぐに病院を探してくださり、たくさんの方が心配して声をかけてくれたこと、本当にうれしかったです。いつも心配して声をかけてくださったり、話の輪に入れていただいたりと、優しすぎて未だに慣れないぐらいです。

緊張はしますが、ここにいるだけで、新しい大きな家族ができたような気持ちになります。そして、何よりも人とのつながり、絆を大切にするロータリーの姿勢から気づいたこと、学び得たことがたくさんありました。ロータリーで関わった方たちやロータリー西南クラブには本当に感謝の気持ちしかありません。

今年からは大学四回生になり、本格的に将来の進路を決める時期が迫っていますが、興味のあることを学ぶために大学院へ進学する道、社会に出て早く一人前になってほしいとの家族の願いを叶えるために就職する道、どちらへ進むべきかまだ最終的な答えを出せていません。しかしこの一年間を通して私は、どのような道に進もうとも一つだけ心に決めていることがあります。それは、ロータリアンのように絆を深めながら互いに高め合い、積極的に職業奉仕や社会貢献ができるような存在になることです。

楊晨
大阪西南 RC

いつかは自分も、米山奨学生として受け取ったロータリーのやさしさと絆のバトンを渡せる存在になればと思います。この目標と感謝の気持ちを胸に、米山奨学生として在籍できる残り短い期間を一日一日大切に過ごしていきたいと思います。

今の私にとって日本は楽しい思い出がたくさん詰まった場所であり、一度も離れたいと思ったことがないほど大好きな国です。そんな日本でさらに恵まれた環境を与えてくれロータリーの存在に感謝し、米山奨学生として選ばれたからこそ得られた経験と学びを、これからも大切にしていきたいと思います。

ロータリーの一員として一年間を過ごすことができた事実は、私たち米山奨学生にとって心の灯のようなもので、温かい気持ちになるのと同時に、勇気と自信を与えてくれました。私たち奨学生に素晴らしい機会と支援を与えてくださったロータリアンのみなさま、本当にありがとうございました。これからそれぞれの道に進む奨学生が多く、寂しい限りですが、いつかは自分たちもみなさんのように人の心に明かりを灯せる人間になれることを願って...

平成 31 年 3 月 2 日
米山奨学生代表 楊晨



実行委員長の挨拶

PHAN KHANH LINH
東大阪みどり RC

ご紹介を預かりました、東大阪みどりロータリークラブにお世話になっている、りと申します。今年の感謝祭の実行委員長を務めさせていただきましたので閉会のご挨拶をさせていただきます。

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。皆様、今日は楽しんでいただけましたでしょうか？

まず、今日の感謝祭のために積極的に参加していただき、頑張ってくれた現役奨学生の皆さん、お疲れ様でした。私はこれまでやや受け身で、指示されたことをこなしてばかりでしたが、皆さんと感謝祭実行の話合いをすることによって、協調性、計画性、役割分担などたくさんのことを学びました。そして妥当することも学びました。とても貴重な経験で、米山奨学生になってよかったと思っています。本当にありがとうございました。

そして、改めて2年間お世話になっ

たロータリークラブの方々に感謝を申し上げます。

いきなりですが、皆様「一人でいられる能力」はご存知でしょうか？これは、私がロータリーと米山奨学生の関係について考えた時に一番最初に浮かんできた用語です。

人間は一人でいられるのにいくつかの要素が必要ですが、その中に「つながり感覚」というものがあります。誰かとの繋がり、どこかの団体に所属し、守られている感覚があることによって安心感を得て、一人で活躍することができます。まさにロータリークラブの方が見守ってくれているおかげで私たちは日々成長することだと思いました。これから私たちは旅立っていきますが、米山奨学生の名に恥じないように、皆様が奨学生を受け入れてよかったと思えるように、頑張りたいと思います。

今まで本当にありがとうございました！



台湾米山学友会年次大会に参加して

林 小微
大阪府立大学
和歌山東 RC

台湾学友会が発足してから
昨年（2018年）で35年
となりました。12月の年次総
会には国内外から学友、家族、
ロータリアンなど120名ほど
集まりました。日本からも米山
奨学会斎藤直美理事長、若林紀
男副理事長からの祝辞がありま
した。

関西からはここ数年、多くの学
友・ロータリアンが参加してい
ます。お互いの総会に参加し、
多くの方とお話することは、世
界平和への一歩でもあり、奨学



生が学友となり、次の奨学生を
支えていくというように次世代
へも繋いでいけたら嬉しいこと
です

今年度、台湾米山奨学金制度
（※注）で奨学金を受ける学生
として、関西米山学友（韓国
籍）の娘さんが選ばれました。
ご縁の輪は確実に広がっていま
す。世界平和の目標は次世代に
受け継がれていくでしょう。今
年度も多くの方が同行できと嬉
しいです。

（※注）

日本人若手研究者対象台湾
米山学友会奨学金制度：
社団法人中華民国扶輪米山会
（台湾米山学友会）が、かつ
て日本に留学し、「ロータリ
ー米山記念奨学生」に選ばれて
経済的支援を受け、安心して研
究に励むことができたことか
ら、「日本でお世話になった恩
返し」の形の一つとして立ち上
げた、日本人若手研究者を対象
とした奨学金制度です。今年で
11年目を迎え、2019年度の
採用は4名です。

タイ米山学友会と 2660 ローターアクトの交流 - マングローブ -

CHUTIKAN TEPSARN
2017 - 2018 年度
タイ米山学友会 会長

2018年11月25日、国
際ロータリー 2660 地
区 Rotaract の皆様と我が学
友会メンバーの合同活動でマ
ングローブ植林を実施しまし
た。

合計 600 本のマングローブ
を植え、ほどほどの体力を使
いとても良い社会貢献と交流
ができてとても嬉しいです。



2019 年度会報募集要項

募集要項

2660 地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、
本学友会の活動をまとめる会報第 36 号の入稿についてお願いいたします。
入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国（ふるさと）と違うなと思ったこと」 どちらかを選んでください。
字数と枚数	約 1000 字
内容	基本的には自由（エッセー・感想文なども可）です。 ※研究レポートを提出することは、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2020 年 2 月 28 日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿は PC メールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス:yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、 と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例: ○○○○大学○○専攻 大阪花子(日本)、世話クラブ: ○○RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真(JPEG) も一緒に送ってください。 できない場合、上 記のメールアドレスまでご連絡ください。

編集チーム

編集: 鍾 允順 (学友・2014 - 2015 年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 池田くれは RC)
校正: アリフ・ザイニ (学友・2013 - 2015 年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 大阪城東)
総括・校正: 何 玉翠 (学友・1987 - 1989 年度米山奨学金受給者・世話クラブ; 奈良 RC)



